



じりき
地力となった稼ぐ力を活かして
当社の成長ストーリーを
着実に実現していく

代表取締役 社長執行役員

石原 美幸

2023年10月1日、当社は誕生してから節目となる10年を迎えました。たくさんの新しい仲間をグループに迎えながら、新しい領域に挑戦し、世界有数のアルミニウム総合メーカーとして成長を遂げ、非常にワクワクする、大きな可能性を持った会社となりました。そして、100年後の世界を、軽やかに、豊かにする決意のもと、さらに歩を進めたところです。

この10周年を迎える2023年度の上半期は、残念ながら当社を取り巻く事業環境が想定ほど好転しませんでした。主力となる缶材は在庫調整局面が長期化し、半導体製造装置向け厚板の需要回復も遅延しています。そうしたなかでも、国内事業においては、進めてきた価格改定や燃料などのサーチャージ制の導入が効力を発揮し、自動車生産の停滞解消にともなう自動車ボディパネル材の販売量の増加も相まって収益は改善しました。また、海外事業は、UATH^{※1}とTAA^{※2}の販売数量が減少しましたが、自動車材需要の回復にともないUWH^{※3}の損益が好転し、TAAにおける品種構成の最適化や製造コストの圧縮などの施策の奏効もあって、増益となりました。売上収益が前年同期比662億円減の4,349億円となるなかでも、事業利益^{※4}は前年同期比78億円増の210億円となり、四半期ごとの事業利益の推移を見ても、しっかり水準が上昇し、進め

てきた構造改革の効果が、当社の稼ぐ力として地力となっていることを確認できたと考えています。

なお、今後の見通しとして、事業環境の厳しさは下半期も継続するものと捉えています。しかし、上半期に想定以上の事業利益を獲得できたことから、通期の事業利益を当初の360億円から380億円に上方修正します。また、事業環境の厳しさは2023年度が底となり、今後は缶材や半導体製造装置向け厚板の需要も回復してくると見えています。そして、中長期的には環境ポジティブなアルミニウム企業として、当社に高い期待をいただいています。今後は、資本コストを意識した資本効率経営を強化していくことはもちろんのこと、当社の成長ストーリーをもっと株主の皆様にお伝えするなど、積極的な対話を通じて、企業価値向上を図っていきたいと考えています。また、足元の稼ぐ力の向上をもって、そのストーリーの実現の蓋然性は高まっていると考えています。こうしたことから、1株当たり配当金を90円に増配します。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

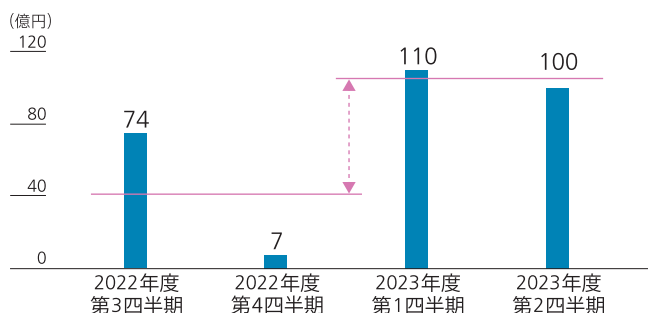
※1 UACJ (Thailand) Co., Ltd.

※2 Tri-Arrows Aluminum Inc.

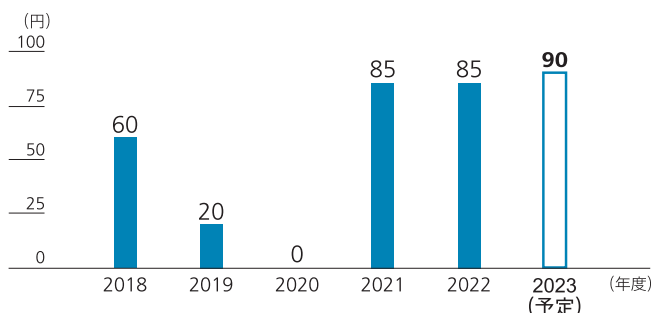
※3 UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

※4 持続的な事業活動の成果。営業利益から、棚卸資産影響、一時的・特殊な重要性のある損益を控除したもの

四半期事業利益推移



1株当たり配当金



Close Up

市場への積極的なアプローチで、 アルミニウムの 活用・活躍の場を拡大

アルミニウムは、使えば使うほど有益な素材になる。

アルミニウムは、多彩な特性を有し、さまざまな場面で活躍できる素材であることから、身の回りのもの、産業社会の至る所にと広く利用されてきました。

そして、アルミニウムは、リサイクルして製造するときのCO₂排出量が鉱物資源から製錬した場合の約3%となることから、リサイクルすればするほどCO₂排出量を減らせる素材でもあります。

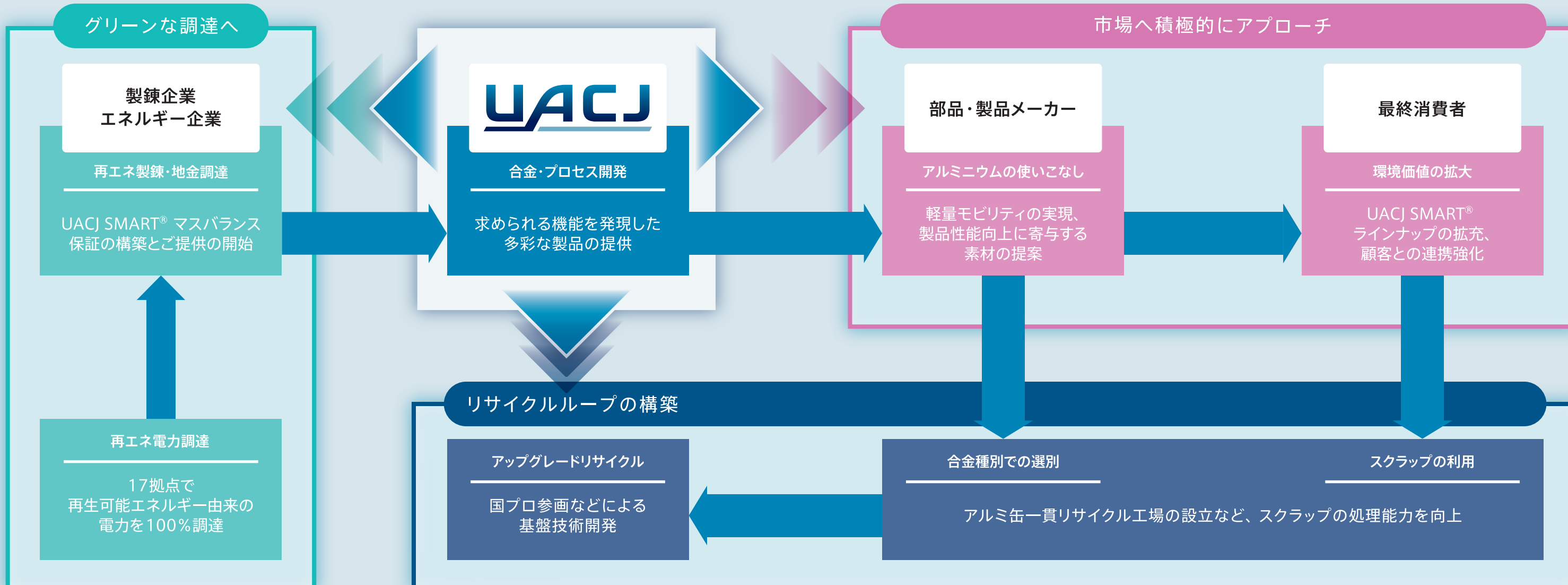
そこで当社は、製品ごとに求められる機能を発現させてきた従来のビジネスドメインから拡大することに挑戦。

アルミニウム製品のサーキュラーエコノミーを構築し、

アルミニウムを使えば使うほど、リサイクルすればするほど、価値が増大していくループを創っていく。

市場への積極的なアプローチで、アルミニウムによる価値をご理解いただき、利用・採用される場面を創っていく。

アルミニウム産業のありたい姿、あるべき姿の実現に向け、当社はすでにその挑戦を始めています。

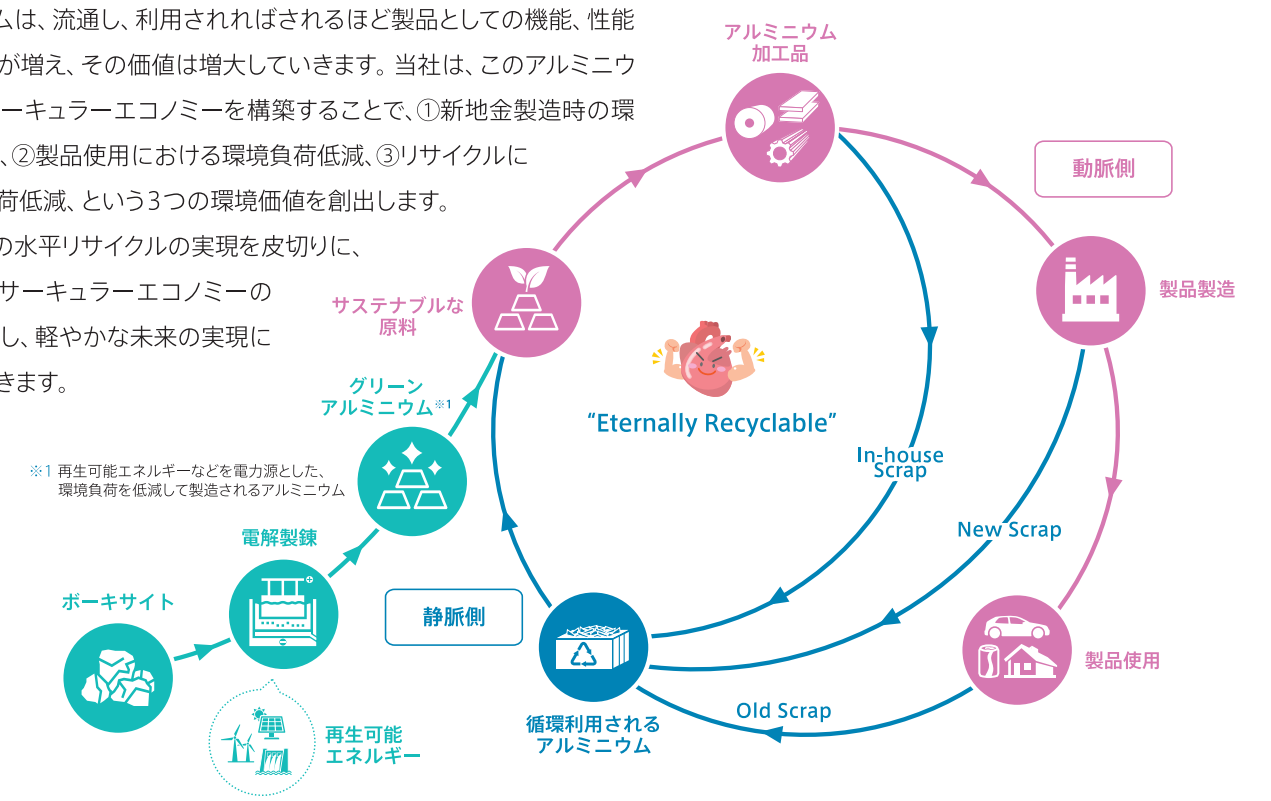


Challenge 1

環境負荷低減に貢献するアルミニウムの サーキュラーエコノミーの心臓へ

アルミニウムは、流通し、利用されればされるほど製品としての機能、性能を活かす場が増え、その価値は増大していきます。当社は、このアルミニウム製品のサーキュラーエコノミーを構築することで、①新地金製造時の環境負荷低減、②製品使用における環境負荷低減、③リサイクルによる環境負荷低減、という3つの環境価値を創出します。

缶、自動車の水平リサイクルの実現を皮切りに、さまざまなサーキュラーエコノミーの構築に挑戦し、軽やかな未来の実現に貢献していきます。



Challenge 2

アルミニウム製品の特長を広く周知し、 身の回りにアルミニウム製品が溢れる社会へ



当社は、グループが持つ技術を活用してビジネス領域を創造、開拓、拡大することを目的として、2023年4月にマーケティング・技術本部を新設し、研究開発部門をその傘下に置く組織改編をしました。今後、技術開発とマーケティング活動を高次に融合させ、マーケットにアルミニウムのさらなる活用を働きかけていきます。その一環として、消費者にアルミニウムをより深く知っていただくブランディングを行っていきます。

その端緒として、2023年9月にアルミ素材・製品のブランド「ALmitas+ (アルミタス)」を発表しました。今後、既存用途に加えて、アルミ素材に新たな機能を加えた製品を中心に、新用途への展開を進め、アウトドア分野向け「ALmitas+ for Outdoor+」やレーシングカート向け「ALmitas+ for racing kart」にとどまらず、適用分野を拡大させていく予定です。ぜひ、「ALmitas+」のロゴを見つけたら手に取ってみてください。

ALmitas+ (アルミタス)：「アルミ」に、面白さやワクワク感をアルミ素材・製品に付加する「足す」、心を満たし、豊かさを提供していきたいという思いを込めた「満たす」からネーミング

平野マーケティング・技術本部長と光田社外取締役が統合レポートにて対談

対談は右の二次元コードでリンクした統合レポート2023のP39-40をご覧ください。



決算ハイライト(連結)

第2四半期累計業績

| | 2022年度 | 2023年度 | 前年同期比 |
|-------------------------------|---------|---------|--------|
| 売上収益 | 5,011億円 | 4,349億円 | △662億円 |
| 事業利益 ^{※1} | 132億円 | 210億円 | 78億円 |
| 棚卸資産影響 | 29億円 | △81億円 | △110億円 |
| 営業利益 | 161億円 | 129億円 | △32億円 |
| 当期利益 ^{※2} | 94億円 | 45億円 | △49億円 |
| Adjusted EBITDA ^{※3} | 304億円 | 391億円 | 87億円 |

通期業績

| | 2022年度 | 2023年度(見込み) | 前年度比 |
|-------------------------------|---------|-------------|--------|
| 売上収益 | 9,557億円 | 8,800億円 | △757億円 |
| 事業利益 ^{※1} | 213億円 | 380億円 | 167億円 |
| 棚卸資産影響 | △100億円 | △110億円 | △10億円 |
| 営業利益 | 113億円 | 270億円 | 157億円 |
| 当期利益 ^{※2} | △13億円 | 110億円 | 123億円 |
| Adjusted EBITDA ^{※3} | 558億円 | 750億円 | 192億円 |

※1 持続的な事業活動の成果。営業利益から、棚卸資産影響、一時的・特殊な重要性のある損益を控除したもの

※2 親会社の所有者に帰属する当期利益

※3 EBITDA—棚卸資産影響

NEWS

お知らせ

今年もESG説明会を12/7(木)に開催

昨年に引き続き、ESG説明会を開催します。当社のマテリアリティ(重要課題)に基づき、進めてきたサステナビリティについての取り組みの進捗や今後の構想・計画などを社長や担当役員が説明します。オンラインでも視聴可能ですので、ぜひご参加ください。



当日の開催内容を収録した動画と資料は、右の二次元コードでリンクしたページに掲載します。▶



10周年記念サイトを公開

2023年10月1日に、当社は発足から10周年となりました。このサイトでは、10周年記念プロジェクトとして制作した社歌「つづけ」に合わせて当社社員が踊るなどしているミュージックビデオや当社のこれまでの歴史などを掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



10周年記念サイトは右の二次元コードでリンクしたページからご覧ください。▶



株式情報(2023年9月30日現在)

基本情報

| | |
|----------|--------------------------------------|
| 上場市場 | 東証 |
| 証券コード | 5741 |
| 株式の売買単位 | 100株 |
| 発行可能株式総数 | 170,000,000株 |
| 発行済株式総数 | 48,328,193株 (※自己株式107,899株を含む) |
| 株主数 | 22,935名 |
| 決算期日 | 3月31日 |
| 定時株主総会 | 6月 |
| 株主確定基準日 | 毎年3月31日 (中間配当を行う場合の配当基準日は毎年9月30日) |

株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目3番3号

公告方法 電子公告 <https://www.uacj.co.jp/>
(やむを得ない事由により、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します)

大株主

| 株主名 | 持株数 ^{※2} (100株) | 持株比率 ^{※3} (%) |
|--|--------------------------|------------------------|
| 古河電気工業株式会社 | 120,365 | 24.96 |
| GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL | 48,425 | 10.04 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 47,943 | 9.94 |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口) | 20,503 | 4.25 |
| ECM MF | 14,500 | 3.00 |
| MLI FOR SEGREGATED PB CLIENT | 10,050 | 2.08 |
| STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103 | 9,636 | 1.99 |
| UACJグループ従業員持株会 | 8,333 | 1.72 |
| ゴールドマン・サックス証券会社 BNYM | 8,290 | 1.71 |
| 住友商事株式会社 | 7,500 | 1.55 |

※2 100株未満を切り捨てて表示しています。

※3 自己株式(107,899株)を控除して計算し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

株主総会資料の電子提供について

2022年9月1日施行の改正会社法により、2023年3月以降に開催される株主総会から、株主総会資料を当社ウェブサイト等に掲載して株主様に提供する制度が導入されました(上場会社は法令上導入が義務付けられています)。インターネットのご利用が困難であるなどの事情により、引き続き株主総会資料を書面で受領することを希望される株主様は、2024年3月31日までに、(1)口座を開設されている証券会社等、または、(2)当社株主名簿管理人であるみずほ信託銀行のいずれかにお申し出いただき、お手続きいただきますようお願いいたします。

お問い合わせ先: みずほ信託銀行 証券代行部 0120-524-324(平日9:00~17:00)

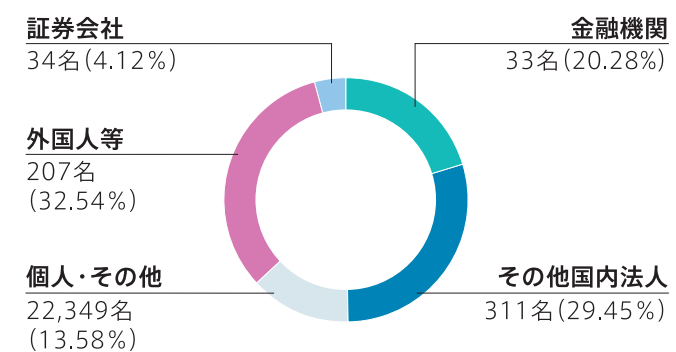
株式会社UACJ

〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目7番2号
東京サンケイビル
Tel. 03-6202-2600(代表) Fax. 03-6202-2021
<https://www.uacj.co.jp/>



“UACJ”、“UACJ”は、日本、米国、中国および欧州連合商標(EUTM)などにおける株式会社UACJの登録商標です。

所有者別の構成比率(株式数比率)^{※1}



※1 自己株式(107,899株)を控除して計算し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。